

特集

もう一度
ごみについて考えよう

わたしたちは、限りある石油などの天然資源から暮らしを便利にしてくれるさまざまなものをつくり、それらを大量に消費しながら生活しています。そして、それを処分するために、焼却や埋め立てを行い、自然環境に大きな負担をかけています。

地球環境への負担を少しでもなくし、限りある資源と美しい自然環境を次の世代に引き継いでいくために、もう一度、ごみについて考えてみましょう。

富士見町のごみの処理量は

どのくらい？

平成13年度から17年度までの町のごみ処理量は、下表のとおりです。平成17年度は1人1日当り880グラムのごみを出している計算になります。前年と比べるとごみの量は減りましたが、全体としては依然増加傾向にあります。可燃ごみの中には、資源物として出せるもの（紙類、ペットボトル、食料品トレイ）が多く含まれています。

ごみはどのよう
処理されているの？

ごみは可燃ごみと不燃ごみに大別されます。皆さんの家庭から出される可燃ごみは、茅野市にある諏訪南清掃センターに運び込まれ、焼却処理をしています。焼却灰は、茅野市と富士見町にある最終処分場に持ち込まれ、埋め立てられています。また、埋め立て地の広さも限りがあるため、2つの処分場とも平成20年度中には満杯になってしまいます。

また、焼却や焼却灰の埋め立てを続けることは、自然環境への負担を大きくし、私たち人間を含む全ての生物の生活環境を悪化させることにつながります。

< 富士見町のごみ処理量年次別推移 >

年度	可燃ごみ	不燃ごみ	資源物	合計	リサイクル率
13	3,816 t	575 t	642 t	5,033 t	12.76%
14	3,847 t	584 t	661 t	5,092 t	12.98%
15	3,875 t	583 t	694 t	5,152 t	13.47%
16	3,913 t	498 t	768 t	5,179 t	14.83%
17	3,910 t	472 t	692 t	5,074 t	13.64%

リサイクル率 = 資源物 ÷ 合計処理量



平成7年から使用している富士見町休戸の最終処分場

